

# 教室だより

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1

TEL : 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) FAX : 4117

http://kanai-es.sado.ed.jp E-mail : skotoba@sado.ed.jp

佐渡市立金井小学校  
佐渡ことば・こころの教室

令和元年12月16日

第 862 号



先日12月3日(水)付の新潟日報に、当教室の取組が掲載されました。親の会高橋美由紀会長は、当教室のことを「なくてはならない場所」と紹介してくださいました。

これからも保護者の方々の期待に応え、共に子どもの成長を喜べる教室でありたいと思います。



## 「待つ」こと

新潟県立佐渡特別支援学校

校長 齋藤 千賀子

先日、出先で「どうするの。」「考えなさい。」と矢継ぎ早に話す声が聞こえてきました。声の方を見ると子どもがうなだれていて、言葉が出ないようでした。時間が迫っていて、悠長に構えていられない状況であったのかもしれませんが。自分自身、親としても教師としても、同じように子どもに対してのことがありました。子どもが困っていると、側にいる大人は支援しなければと考え、手助けしたり指示を出したりします。また、子どもが自分で考えようとしているのに、つい口を出してしまうということもあるのではないのでしょうか。困っているときは考えているときでもあります。子どもを静かに見守ること、待つことも大切な支援です。「本来、学ぶとは、分かるうとして、分からない状態から出発するもの。子どもに学ばせるにはまず教師が『待つ』こと」勤務した学校で校長先生から指導を受けたことです。時間の制約もあり、待つことは簡単ではありませんが、子どもが自分で考え判断し行動していけるようにするために大切なことだと思います。



## 「練習したのに・・・」

ある日、Aさんが泣きながら来室しました。話を聞いてみると、「漢字の再テストで、思うような点数が取れなかった。合格点を取りたくて家で練習したのに、全然思い出せなかった。悔しい。」と、うつむいたまま話をしてくれました。

Aさんは、漢字の読み書きがとても苦手な子です。学級では、指導や支援をAさんの実態に合わせて行っています。しかしながら、Aさんは練習を頑張ったにもかかわらず、漢字をほとんど書けませんでした。学習に対して、さらに自信を失ってしまったように感じました。

2016年に施行された障害者差別解消法で合理的配慮が認められるようになりました。「今」、困っている子どもを助けるための手立てを保護者や担任と相談・実践し、「これから先」、より良く学ぶ方法を引き継ぐ必要があると強く思います。

ことばの教室では、Aさんが得意なひらめき力や推理力を発揮できるような課題を用いています。Aさん自身が、自分の得意なことを知り、それを生かした生活や学習ができるよう支援していきたいと思っています。(椿)



## 親の会コーナー



### 会員の声 No. 73

W・M (羽茂地区)

佐渡ことば・こころの教室開設50周年おめでとうございます。長男が4歳の時からお世話になっています。先生方の優しく温かな御指導のおかげで我が子にとって、ことば・こころの教室は、心のオアシスというような存在です。親の私にとっても、先生方からの「そのままのお母さんでいいんですよ。」「〇〇さんのこういう所、素敵だな。」というような言葉に勇気づけられ、気持ちが前向きに明るくなりました。本当にありがとうございます。先生方の、子どもの気持ちに共感し、寄り添う姿を見習いたいと思います。

## 貸し出します

親の会の会費で、佐渡ことば・こころの教室用に金澤親子の書籍を購入させていただきました。サインも書いてもらいました。玄関と待合室に置いてあります。貸し出しもしておりますので、職員にお気軽にお声がけください。



金澤翔子さんのサイン

翔子

## お知らせコーナー



## 判定委員会

第1回判定会議が10月21日(月)に金井小学校にて行われました。当教室の入級希望者と終了予定者についての協議・判定を行いました。

医師も出席



## 運営会議

第2回運営会議が11月20日(水)に、金井小学校にて行われました。今年度の中間報告や次年度の運営計画について話し合われました。

教育委員会も出席



## ことば・こころメモリアル(ここメモ)



開設当時の金井小学校

古藤宗雄先生



計良益夫先生

50年の歴史をもつ佐渡ことば・こころの教室ですが、その誕生にまつわる話を紹介します。

佐渡ことば・こころの教室の前身は、「佐渡・ことばの教室」でした。

昭和38年末に、口蓋裂の長女をもつ秋山さんが、自分の子どものために県や市の関係機関を回ったことがきっかけです。当時は、佐渡で「ことばの指導」を受けるのが難しい時代でした。その後、知事などへの陳情や「親の会」の結成をするなど活動を経て「佐渡・ことばの教室」が昭和45年に開級となりました。

最初に担当されたのは、計良益夫教諭(写真右)。次が古藤宗雄教諭(写真左)でした。待ちに待った「ことばの教室」開設は保護者の熱い願いと関係者の御尽力のたまものなのです。

参考：『ことばとこころが劈かれるとき—教室開設30年のあゆみ—』